

尋常性痤瘡の治療

H20. 10. 17 金町店

先日、A 皮膚科を受診された男性の方にフラジール内服錠が処方されましたが、痤瘡の治療の為であることに気付かず投薬が上手く出来なかった例がありました。

また、近日新しく日本初のレチノイド様作用を持つ外用剤が発売になる為、尋常性痤瘡の治療について調べました。

処方：A 皮膚科 (50 歳 男性)

フラジール内服錠 250mg 2T

セルベックスカプセル 50mg 2C

朝・夕食後 14 日分 (2 回目より 28 日分になる)

H20. 4. 12 初診。投薬目的がわからず、用法のみ説明。

H20. 5. 16 顔面全体に細かいブツブツ (膿疱) がみられる。

H20. 7. 02 目の周りを中心に膿疱がみられる。

H20. 9. 13 詳細不明

シオノギ製薬よりメトロニダゾールの痤瘡治療に関する文献をいただきました。

難治性痤瘡は男性に多く、思春期を過ぎても軽快しない例もあり一般的な痤瘡治療に反応せず長期に渡り多くの治療を継続しなければならない場合もあるそうです。その様な症例に対してミノサイクリン(ミノイソ)などのテトラサイクリン系抗生剤とメトロニダゾールの併用が有効であったとの報告がありました。また、デキサメサゾン(デカドロン)の眠前投与が奏功した報告もあるそうです。

しかし、中程度の痤瘡に対してはほとんど無効との文献もあるそうで、安全性、有効性は未確立であるとの返事でした。

メトロニダゾール

適応：トリコモナス症

胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクターピロリ感染症

抗原虫効果を有するが、偏性嫌気性菌にも有効であり囊腫型痤瘡にも有効である。

作用機序は、P. acnes に対し抗菌活性を示し、好中球由来の活性酸素を抑制し、抗炎症効果を発揮するものと推測されている。

副作用として、消化器症状 (味覚異常、舌苔、食欲不振など) や軽度の肝障害 (GOT、GPT の一過性又は軽度の上昇) があげられる。治療が長期に及ぶ事が多いため、副作用のチェックは重要になると考えられている。

レチノイド

ビタミンA(Retinol)とその類似化合物であるレチノイドは、生体内では形態形成抑制作用、細胞の分化増殖抑制などの作用を持つ。これは、ビタミンAの誘導体であるレチノイン酸（トレチノンとも呼ばれる）がレチノイン酸受容体に結合し遺伝子転写促進化を誘導する事によるとわかってきている。

現在は、ビタミンAとは全く類似しない化学構造を持つ化合物でも、レチノイン酸受容体と高い結合親和性を示す合成化合物を含めて、レチノイドと称される。

トレチノンの皮膚における作用

継続的外用により、表皮においては表皮角化細胞の増殖促進作用を示し、表皮は肥厚し角質はコンパクトになる。レチノイドにより表皮細胞の増殖が促進され、ターンオーバーも早くなる。結果的に表皮内のメラニンが排出される事により、しみへの治療効果が期待できる。

また、角質の剥離が見られ薬剤浸透性が高まるとともに、角栓が取れる事により、にきびへの治療効果が見られる。皮脂の分泌も抑制するといわれている。

レチノイド外用の副作用は、皮膚炎症状（落屑、紅斑など）、それによる炎症後色素沈着の可能性がある。さらに催奇形性も問題となっているが、実際に血中に入る量は非常に低いと考えられている。

ディフェリンゲル0.1%

10月21日発売（ガルデマ社、シオノギ製薬）

国内初のレチノイド様作用を有する外用尋常性痤瘡治療剤です。

成分：アパタレン

適応：尋常性痤瘡（顔面の尋常性痤瘡のみ）

用法：1日1回 洗顔後

注意：妊婦に対しては使用しないこと。

授乳婦には使用しないことが望ましい。（使用する場合は授乳を避ける）

表皮角化細胞の核内レチノイン酸受容体に結合し、顆粒細胞から角質細胞への分化を抑制することで、ニキビの前段階である微小面皰と非炎症性皮疹（閉鎖面皰、解放面皰）の形成を抑制し、その後進展して出来る炎症性皮疹も減少させます。

副作用として、皮膚乾燥(56.1%)、皮膚剥離(33.5%)、紅斑(21.9%)、皮膚刺激(1.1%)などがあり、これらの症状は特に使用開始後2週間以内に現れ、その後和らいでいきます。

尋常性痤瘡の治療方法と治療薬

局所外用療法

- ・イオウ剤 角質剥離作用（毛包漏斗部の異常角化を抑える）
- ・ディフェリンゲル 毛包上皮細胞の分化抑制（毛包漏斗部の異常角化を抑える）
- ・スタデルムC r 抗炎症作用
- ・アクアチムC r 抗菌作用
- ・ダラシンTゲル 抗菌作用

全身内服療法

- ①抗菌剤 テトラサイクイン系抗生剤が P. acnes に対する抗菌作用、菌体外酵素の生産抑制、白血球走化因子の抑制、活性酸素の抑制の目的で主に用いられる。
- ②ホルモン剤 月経前増悪型、月経不順型を伴う症例に有効
- ③メトロニダゾール 嚢腫型痤瘡に有効（詳しくは別紙参照）
- ④ビタミン B2・B6 皮脂分泌の抑制作用
ビタミン A 毛包の角化抑制作用
ビタミン E 過酸化脂質の抑制作用（いずれも補助的なもの）
- ⑤トラニラスト 瘢痕・ケロイドに有効
- ⑥漢方製剤 荊芥連翹湯、清上防風湯、十味敗毒湯などが用いられる。
近年、漢方製剤についても P. acnes に対する抗菌作用があることが明らかにされつつある。

理学療法

- ・面皰圧出 毛包内に貯留している内容物を取り除く

外科的治療

- ・切開、排膿 嚢腫、結節、皮下膿瘍を形成した痤瘡に行う
- ・手術 外科的に摘除する

スキンケア

- ・洗顔 毛孔の閉塞の予防
- ・化粧 油性のファンデーション、コンシーラーは毛孔を塞ぎ痤瘡を悪化させる原因となる為控えた方が良い。